新文化芸術創造拠点「なかの AGORA」

半世紀前からこの地に根付き、文化芸術拠点として親しまれてきた中野市市民会館。
今後も永きに渡り市民の居場所として更に親しまれる拠点とするため、
３つの特徴を持たせたホールで構成する新文化芸術創造拠点「なかの AGORA」を提案致します。

0 到達目標の設定

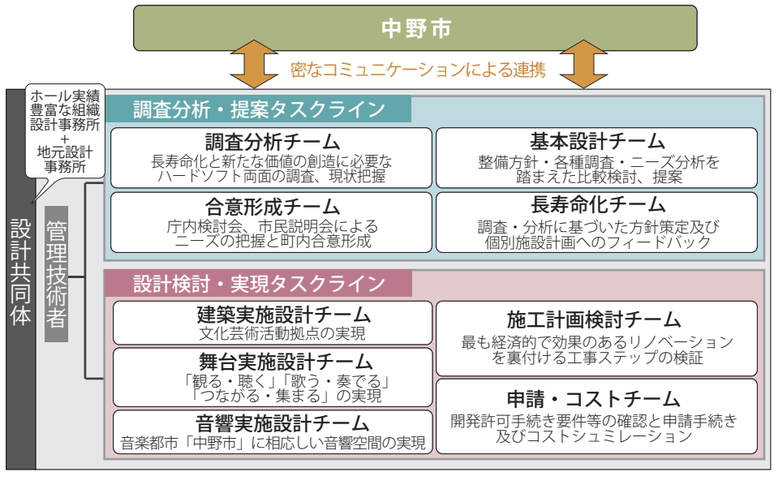
本業務において解決すべき課題を踏まえ、以下の到達目標を設定します。

到達目標：『的確なニーズの把握と調査分析に基づく長寿命化計画の策定と新たな文化芸術創造拠点の実現』

1 実施方針：業務への取組体制 / 業務実施上の配慮事項
２つのタスクラインに沿った実施体制で臨みます

地元設計事務所との設計共同体を構成し、現地を熟知している調査・分析チームとホール改修実績が豊富な設計・検討チーム体制を構築します。２つのタスクラインに沿った実施体制とすることで、限られた設計工期の中で十分な検討成果を取り纏めます。

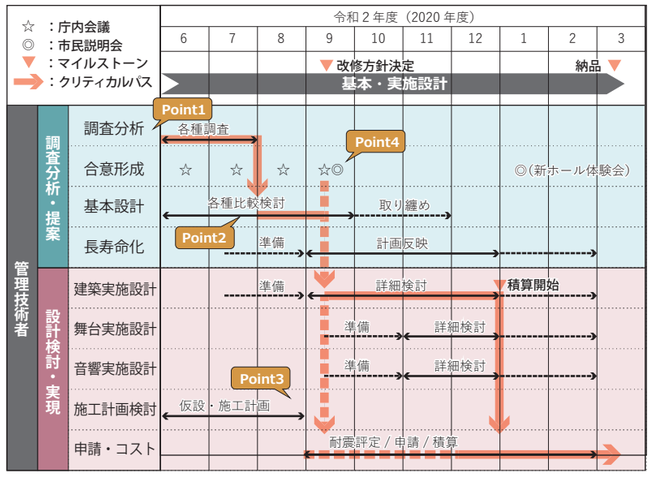
【表 1. 設計体制ダイアグラム】



2 実施方針：業務工程 / 業務実施上の配慮事項
専門チームの連携により確実に業務を推進します

各チームが連携しながら、様々な検討を同時平行で実施します。また、意思決定が必要な時期や業務全体のクリティカルラインを示し、関係者間で常に共有しながら業務を推進することで、確度の高い業務成果と確実な業務推進を徹底致します。

【表 2. 業務工程表】



Point1
タスク分解と専門家チーム体制の構築
指定工期内で確実な成果をあげるため、２つのタスクライン設定と専門チーム体制を構築します。

Point2
同時検討作業による密度の高い成果の提供
同時並行作業が可能な体制構築により、密度の高い業務成果を提供します。

Point3
耐震評定再取得と構造計画方針の決定
設計工程中盤に想定している構造計画決定期日を踏まえ、前倒しの設計工程を組んで取り組みます。

Point4
令和２年９月末までに改修方針を確定
調査分析結果を踏まえた比較検討資料を示し意思決定しやすい判断材料を提供します。

Point5
現場工事期間の短い PC 部材の採用
耐震補強には、高品質・高耐久である工場製作部材（PC）を積極的に採用し、全体工期短縮を図ります。

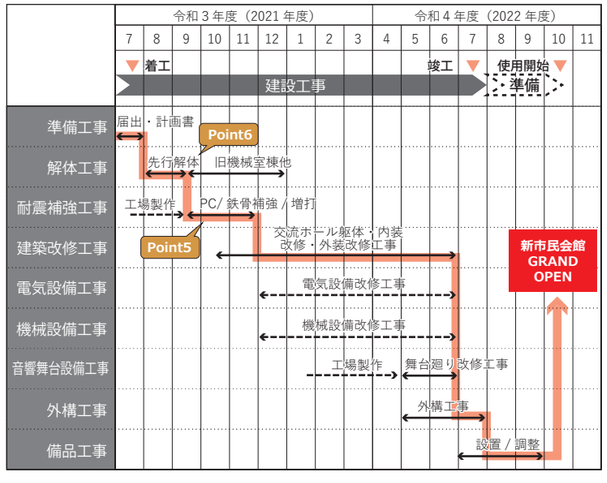
Point6
工事ステップの検証による工期短縮
旧機械室棟に干渉しない増築配置や先行解体、地下階面積の圧縮など工期短縮を図ります。

3 実施方針：工事工程
限られた工期の中で最適な改修案を導きます

具体策 5：工事ステップの最適化などによる工期短縮と見える化

既存躯体の解体や耐震補強工事、内外装工事などの主要工事の工事手順や施工方法を具体的に検討することで、設定工期内のクリティカルパスを押さえた最適な改修工事工程案を提案します。

【表 3. 最適な工事ステップと工事工程案】



4 実施方針：設計上の配慮事項
次世代につなぐ市民に身近な新文化芸術創造拠点「なかの AGORA」実現のための具体策を提案します

「中野市市民会館整備方針」で示されている３つの方向性を踏まえ、「なかの AGORA」実践のための５つの具体策を提案します。

●整備の方向性
①安全・安心の確保　②財政負担の軽減　③新たな価値の創造

文化芸術創造拠点を実現するための５つの具体策

新たな価値の創造

特定テーマ（ア）（エ）
具体策 1：現状課題の明確化
現状課題と改善策を示したリストを作成し、比較検討材料や庁内検討会での基礎資料として活用します。

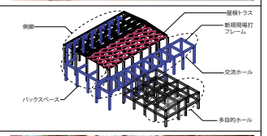
	現状課題	解決策	
新たな価値の創造	ホールの非手	交流ロビーを庁舎側に出し、新たな顔をつくる	
	アプローチ	庁舎側から直接出入り可能なエントランスを新設	
	交流スペース不足	交流スペースとなるギャラリー、共用ロビーを新設	
	舞台の容量不足	舞台裏を拡充し資産を倍増させる	
	段差の解消	基準レベルを設定し、バリアフリー化する	
	客席の位置・動線	客席を舞台裏に配置し、裏動線を確保する	など
財政負担の軽減	設備効率の改善	高効率な省エネ設備に更新する	など
	耐震強度不足	将来の建替えを視野に入れた自由度のある耐震補強	
	老朽化	劣化部材の改修と共に長寿命化を図る	など

新たな価値の創造

特定テーマ（ア）（イ）（エ）
具体策 2：「普段着の市民会館」を実現する　リノベ―ションの提案
公園に出かけるように様々な人々が利用し、新たな価値を創造する文化芸術創造拠点を目指します。

安全・安心の確保

特定テーマ（ウ）（エ）
具体策 3：30 年後の姿を視野に入れた合理的な耐震補強提案
各種補強工法等の比較検討を行い、長期的な姿を視野に入れた耐震補強最適案を導きます。



財政負担の軽減

特定テーマ（イ）（エ）
具体策 4：フレキシブルで高機能な設備計画
将来にわたる財政負担軽減のため、中長期的な視点を持ったメリハリのあるコスト縮減策を提案します。

財政負担の軽減

実施方針３・特定テーマ（エ）
具体策 5：工事ステップの最適化などによる工期短縮とコストの見える化
PC 部材の採用や工事ステップの最適化、地下面積の最小化により全体工期短縮を実現します。

【図 1. 整備方針と具体策】

（様式 11）特定テーマについての技術提案書（全３枚中１枚）

特定テーマ（ア）「ここで観る・聴く」「ここで歌う・奏でる」「ここでつながる・集まる」を具体化するリノベーションの提案

1 課題の整理
解決すべき課題や目指すべき姿を明確化します

具体策１：現状課題の明確化

現状課題と改決策を体系的に整理したリストを作成・見える化し、比較検討材料や庁内検討会での基礎資料として活用します。

【表 4. 現状課題の抽出と解決策リスト】

	現状課題	解決策
新たな価値の創造	ホールの向き	交流ロビーを庁舎側に出し、新たな顔をつくる
	アプローチ	庁舎側から直接出入り可能なエントランスを新設
	交流スペース不足	交流スペースとなるギャラリー、共用ロビーを新設
	倉庫の容量不足	舞台裏を拡充し倉庫を倍増させる
	段差の解消	基準レベルを設定し、バリアフリー化する
	楽屋の位置・動線	楽屋を舞台裏に配置し、裏動線を確保する　など
財政	設備効率の改善	高効率な省エネ設備に更新する　など
安全安心	耐震強度不足	将来の建替えを視野に入れた自由度のある耐震補強
	老朽化	劣化部材の改修と共に長寿命化を図る　など

2 リノベ提案
本庁舎や周辺施設との相乗効果を発揮し３つのホールで構成する「なかの AGORA」を提案します

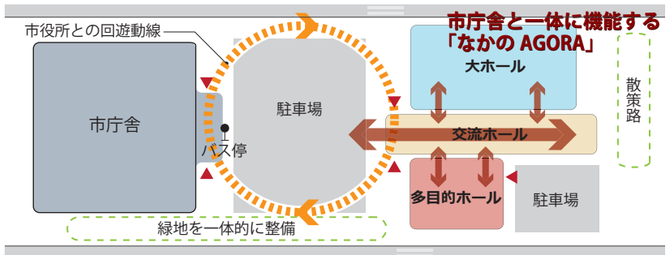
具体策２：「普段着の市民会館」を実現するリノベーションの提案

2-1. 市民の集いの場「交流ホール」でつながる「なかの AGORA」の提案

ホール棟と会議室棟の間に第３のホールとして新設する「交流ホール」は、会議室棟に設置する「多目的ホール」や大ホール、市庁舎も含めた全体をつなぎ留める本プロジェクトの核として位置づけています。

2-2. 市庁舎や周辺施設も含めた配置動線軸の設定

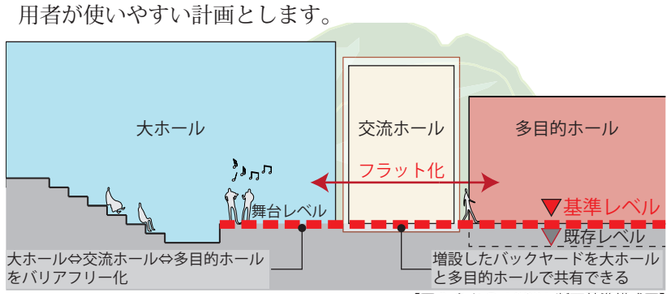
市庁舎側と一体に機能する歩行者動線を設定し、市庁舎側からアクセスできる出入口や通り抜け動線など利用しやすい配置計画とします。



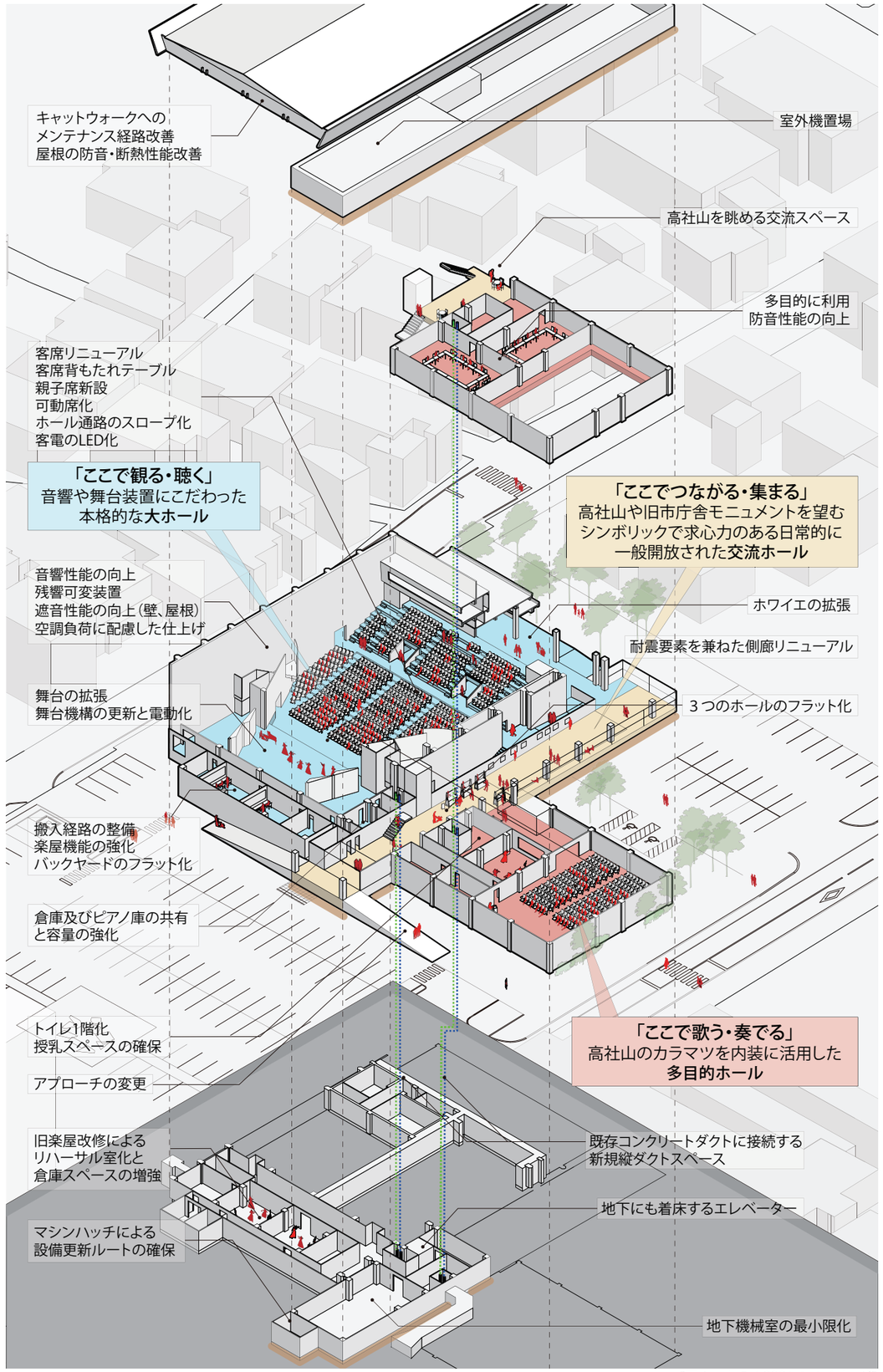
【図 2. なかの AGORA 配置基準模式図】

2-3. 合理的に機能する断面設定

交流ホール・大ホール舞台・多目的ホールと同一レベルに設定することで、バックヤード諸室の共有や床段差も最小限にでき利用者が使いやすい計画とします。



【図 3. なかの AGORA 断面基準模式図】



【図 4. なかの AGORA 全体イメージ】

3 リノベ提案
楽しむ側も演じる側もサポートする側もふらり立ち寄る市民にも愛される市民会館を目指します

具体策２：「普段着の市民会館」を実現するリノベーションの提案

3-1.「楽しむ」「演じる」「サポートする」、様々な利用者の視点に立った改修提案

施設全体が発表・鑑賞の場となるように検討を行います（左図 4）。音楽・演劇・講演など多様なイベントを快適に鑑賞するための座席幅の見直しや親子席の新設を行います。

様々な演目への最適化を目指し、残響時間や反射音の設定・検証を行います。舞台機構の電動化・搬入動線の改善・楽屋と倉庫の連動・フラット化など、使い勝手を重視した提案を行います。

また合理的な管理運営のために施設中央への管理事務室の配置など、当 JV の豊富な実績を活かした比較検討や事例を通じた、様々な判断材料をご提供致します。

3-2. ふらり集える新拠点「なかの AGORA」を目指して

市民会館に用事がない中野市民も日常的に利用しやすい施設となるように、アクセシビリティの改善や可変可能な無料エリア設定、子育て世代が集えるような授乳スペースの設えなど、家族で公園に出かけるかのように普段着で集える様々な仕掛けを提案します。

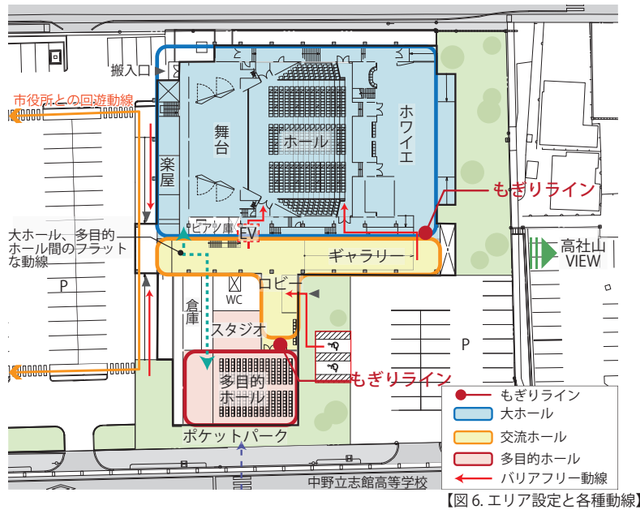
3-3. 地域のシンボル高社山を望む「交流ホール」

【図 5. 高社山を望む交流ホールのイメージ】

3-4. もぎりライン、開放エリアの設定とバリアフリー動線

交流ホールを中心とした空間構成とすることで、施設全体のイベントや個別同時利用など様々なイベントの組合せにも柔軟に対応することができ、稼働率が高く賑わい溢れる新市民会館を目指します。

また、交流ホールを通じて誰もが施設全体を利用できるようにバリアフリー動線を設定します。



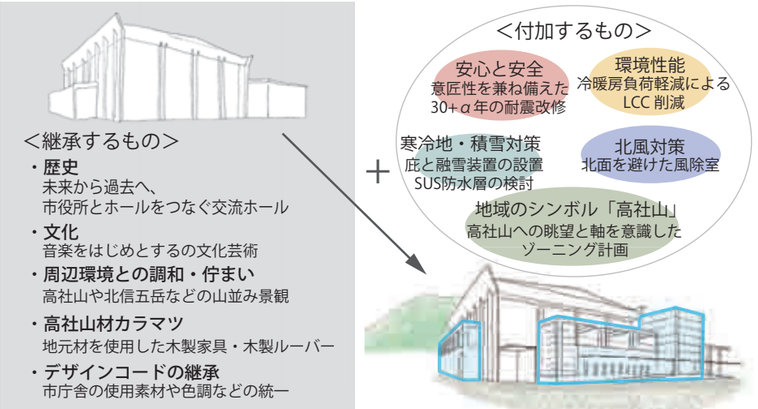
【図 6. エリア設定と各種動線】

特定テーマ（イ）中野市らしさの表現と文化芸術拠点創造を市民協働するための提案

1 中野市らしさ提案
半世紀前から脈々と受け継いできたものと新たにつけ加えて次世代へつなぐもの

具体策 2：「普段着の市民会館」を実現するリノベーションの提案

昭和 44 年より市庁舎と一体としてシビックコアを形成してきた特性や高社山をはじめとする景観、旧庁舎のモニュメント、記憶などを継承すると共に、新たな要素を付加し今後も永く市民に愛される文化芸術拠点として、設計に反映させます。



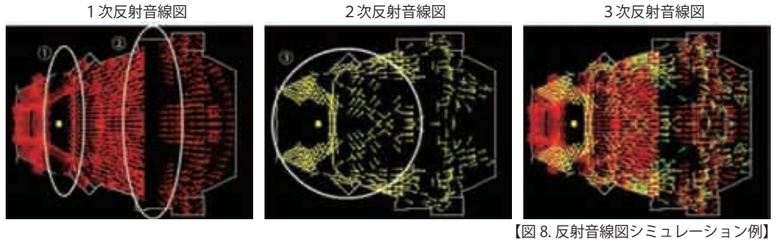
【図 7. 継承するものと付加するもの】

2 中野市らしさ提案
中野市民の文化芸術活動をサポートする「中野オリジナル」を実現します

具体策 2：「普段着の市民会館」を実現するリノベーションの提案

2-1. 音楽都市中野市に相応しい、「心地良い音に包まれる音環境」の検証と実現

反射板の形状見直し・使用素材の検証・3 次反射音まで客席全体にムラなく行届く反射音線図シミュレーションを行うことにより、「心地良い音に包まれる音環境」を実現し近隣のホールと差別化を図ります。



【図 8. 反射音線図シミュレーション例】

2-2. 子どもからお年寄りまで、中野市の文化芸術の発信拠点としての施設づくり

年代・性別を超え中野市民が集い楽しめる空間づくりのために、VR（※）を活用した新ホール体験会や市民説明会の企画を提案致します。

またネーミングライツやホール座席に関するワークショップなど、施工段階での企画も含め施設イメージの再構築や市民参加のきっかけを創ります。

【図 9. VR を活用した新ホール体験会（当 JV 事例）】

【図 10. ホール座席ワークショップ（当 JV 事例）】
※バーチャルリアリティ

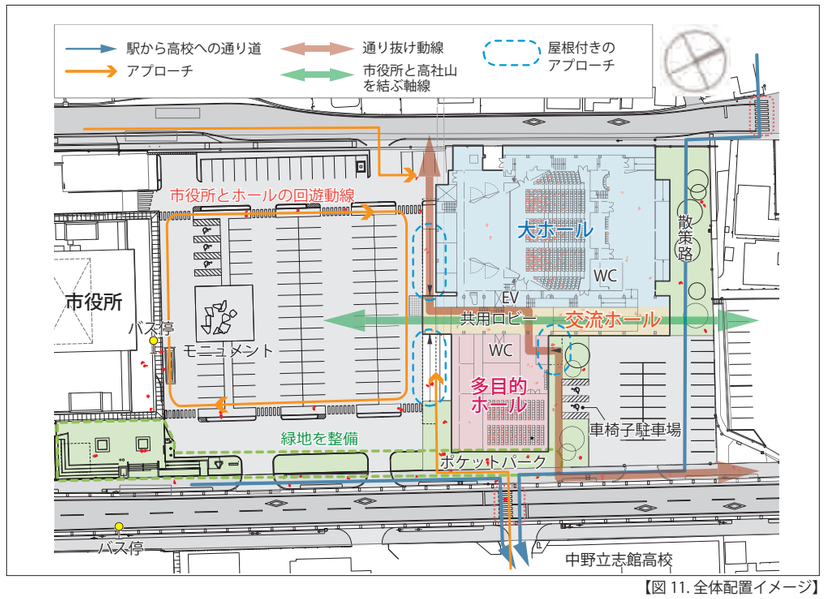
3 市民協働策
全ての中野市民のために。創造と表現、鑑賞の場と心地よい居場所の充実を重視します

具体策 2：「普段着の市民会館」を実現するリノベーションの提案

施設内にエレベーター・多目的トイレ・授乳スペースを整備し、全ての中野市民にとって使いやすい計画とします。

外部は市庁舎との連携を考慮した動線・積雪を考慮した屋根付きのアプローチ・車椅子駐車場・コミュニティバス乗場や前面道路からアクセスし易い経路を確保するなど、アクセシビリティの向上を徹底します。

また、市庁舎のポケットパークと連動した緑地帯を前面道路に沿って整備し、歩行者動線と関連付けることで敷地全体を有効活用します。



【図 11. 全体配置イメージ】

4 市民協働策
本格的な演目からロビーコンサートまで様々な市民文化芸術活動を受け入れるフレキシブルで高機能な設備仕様を提案します

具体策 4：フレキシブルで高機能な設備計画

4-1. 老若男女の市民参加を下支えする交流ホール

練習や発表の場は、ホールだけでなく共用ロビーやホワイエなども含めた「なかの AGORA」全体を活動の場として捉えた設計を提案します。交流ホールでのイベントにも対応できる電源や給排水設備を設置するなど、個々の特性に合った表現空間の整備を目指します。

【図 12. ロビーコンサート（当 JV 事例）】

4-2. 設備スペースの計画と既存の設備トレンチルートの活用

空調設備は、大容量と高効率を両立する電気式空冷ヒートポンプモジュールチラーを採用し、省スペースと省エネ化を実現します。設備スペースは、30 年後以降の改築時にも継続して利用可能な交流ホール屋上スペースを活用することで、地下工事を最小限にし省コストと工期短縮に寄与します。その他環境負荷低減策を表 5 に示します。

【表 5. 設備計画 / 環境負荷低減策】

光と熱の利用法		空気と水の利用法	
日射遮蔽 / 採光	・庇による日射遮蔽 ・高天井からのトップライトによる柔らかい光 ・断面変化による積極的な自然採光	空調	・利用時間の違いによる効率的な空調ゾーニング ・空調排熱の居住域空調
照明	・LED 照明器具の採用（各利用諸室） ・昼光センサー（共用ホール） ・人感センサー（WC） ・初期照度補正による消費電力削減	通風 / 換気	・内外部建具の開閉による通風のコントロール ・全熱交換機、CO2 制御 ・換気ガラリによる風の通り道（重力換気）
高断熱 / 遮熱	・Low-e 複層ガラス、高断熱サッシ、高性能断熱材の使用	衛生	・節水型器具（大便器、節水・節湯水栓）の採用 ・雨水利用（緑化散水、WC 洗浄水）
ｴﾈﾙｷﾞｰ活用	・太陽光発電パネル ・自然採光、自然通風		

特定テーマ（ウ）モダニズム建築に新たな価値を生み出すための耐震補強計画や、長寿命化改修に関する提案

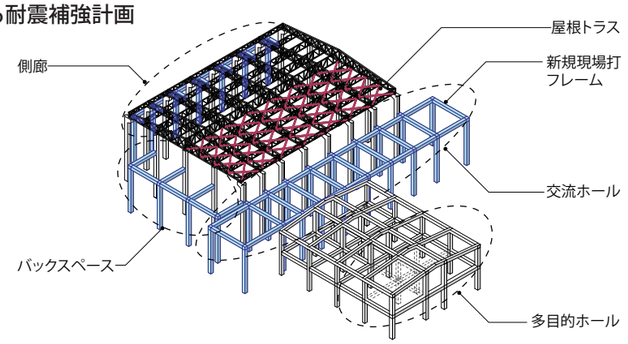
1 耐震補強提案
安全安心の確保・経済性・機能性を兼ね備えた耐震補強案を検討・立案します

具体策３：３０年後の姿を視野に入れた合理的な耐震補強提案

1-1. 様々なメリットを生み出すプレキャスト部材による耐震補強計画

利用者の安全安心を確保すると共に、ホールとしての機能強化に寄与する補強計画を提案致します。ホワイエの利便性や明るく緩やかな勾配の側廊化、楽屋・倉庫などのバックスペースの充実化を図ります。

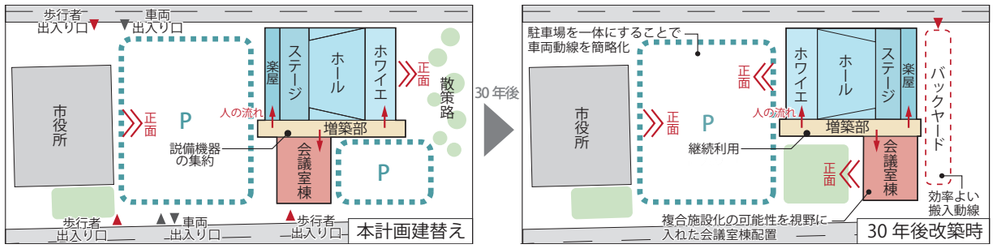
また補強工法は、PC（プレキャスト）部材を活用し、工場製作による現場工期の短縮とコスト縮減を図り、高品質で高耐久な認定工法を優先的に採用します。



【図 13. メインフレームイメージ】

1-2. 将来の建替えも視野に入れた、合理的な耐震補強案

ホール棟と会議室棟の間に増築する空間に、設備機能を集約させ、30 年後以降の改築時もホール機能を継続して使用できるように断面レベルの設定をします。旧躯体の耐震要素も兼ね備えると共に、将来の姿を視野に入れた最適な耐震補強計画を立案します。

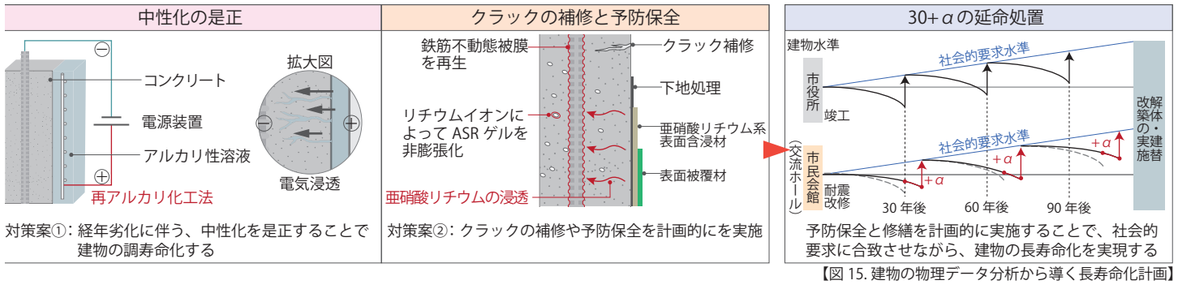


【図 14. 将来建替え計画図】

2 長寿命化提案
建物の物理データに加え、市民会館をとりまく様々な数値をまとめた施設カルテ（建物情報一覧表）を作成し、最適な長寿命化計画を策定します

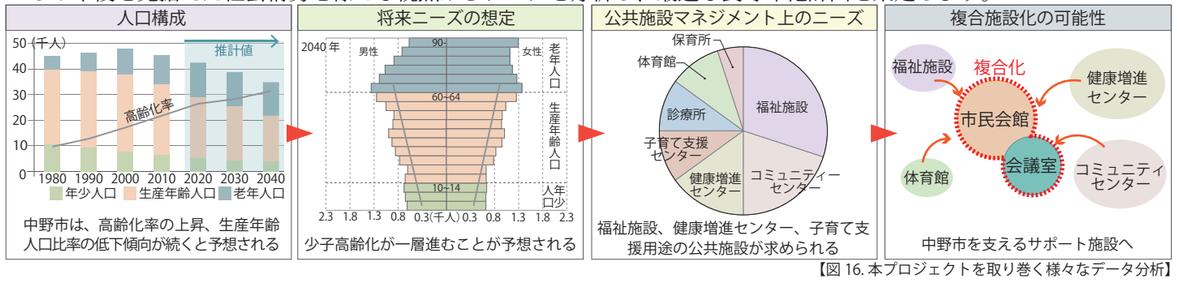
具体策３：３０年後の姿を視野に入れた合理的な耐震補強提案

劣化度や躯体の物理的な状態を的確に捉え、延命処置を施します。また延命期間を市庁舎の大規模改修時期とずらし財政負担の平準化を図ります。



【図 15. 建物の物理データ分析から導く長寿命化計画】

３０年後を見据えた社会情勢を様々な視点からデータを分析し、最適な長寿命化計画を策定します。



【図 16. 本プロジェクトを取り巻く様々なデータ分析】

特定テーマ（エ）独自提案

3 独自提案
中野市民会館整備方針で示される方向性を全て網羅する第３のホール「交流ホール」を挿入することにより獲得する様々な相乗効果を提案します

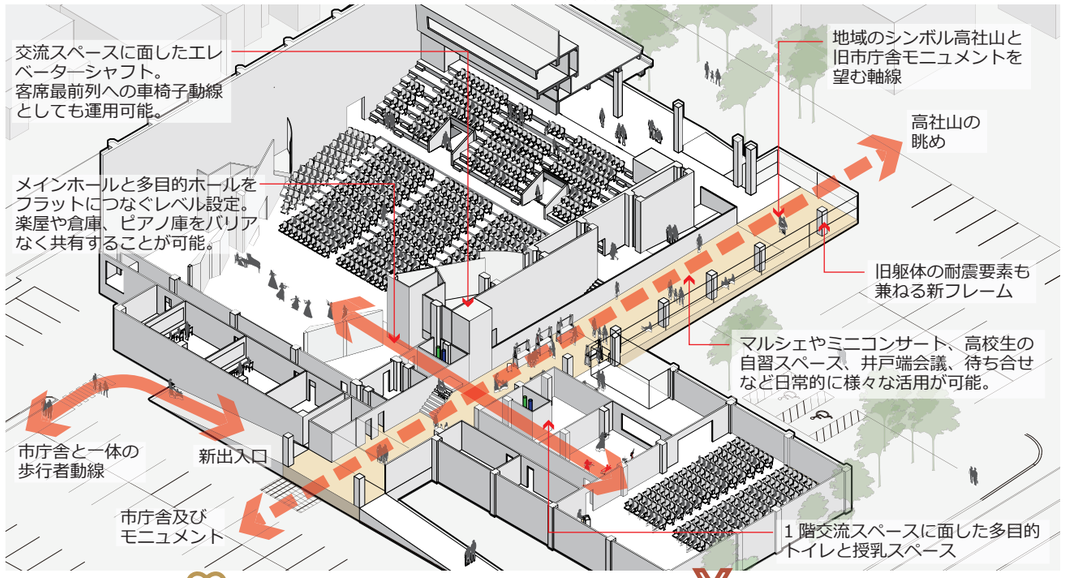
具体策１２３４５

「中野市市民会館整備方針」で示される３つの整備の方向性は、本プロジェクトを推進する上で一つも欠かすことのできない重要な道標であると認識しています。地域のシンボルである高社山と旧市庁舎の記憶を残すモニュメントを望むように計画した第３のホールは、中野市民の様々な活動を受け入れる求心力のある空間となるよう計画しています。更に次世代まで持続可能な拠点空間として、市庁舎と一体に機能しながら様々な相乗効果を生み出すリノベーション計画を提案致します。

整備方針を具現化する交流ホールとその相乗効果に関する独自提案

新たな価値の創造

1. 高社山や旧市庁舎の面影が残るモニュメントを望む軸線に配置することで交流ホールのシンボル性を高めます
2. 日常的に開放された空間で『つながる・集まる』を実現します
3. 新たな市民の居場所として機能します
4. 目的外ユーザーを獲得し、より賑わいのある新中野市市民会館を実現します



安全安心の確保

1. 耐震要素も兼ねた合理的な新フレームにより、安全性を確保します
2. ゆとりを持たせた空間設定により、居心地の良い交流スペースを実現します
3. エレベーターや多目的トイレ、授乳室などを付随させることで、誰もが利用し易い機能配置となります

財政負担の軽減

1. 将来の改築時に既存躯体を解体し易く、継続利用可能な新フレームによりトータルコストを縮減します
2. 工事ステップの検証による旧機械室棟を避けた配置と地下階面積の最小化により、最大約 6 ヶ月の工期短縮を図ります
3. 吹抜空間の居住域空調と熱負荷軽減軽減により空調エネルギーを低減します

【図 17. 整備方針を具現化する交流ホールとその相乗効果】

4 独自提案
潜在的なニーズや課題を踏まえた改修案やより確度の高い長寿命化策立案のための追加調査を提案します

具体策１２３４

ハード・ソフト両面から施設の状態を正確に把握し、将来におけるニーズの変化にも柔軟に対応できるよう表 6 に示す追加調査を実施します。安全安心を担保しつつ、より永く市民ホールとしての機能を満足しながら、財政負担の平準化にも寄与するための提案です。

【表 6. 追加調査リスト】

調査項目	調査内容	調査データの活用例
現地調査関係	塩化物量調査（フリーデル氏塩※）、残響時間測定、騒音・音漏れ測定 ※フリーデル氏塩：中性化の促進によってコンクリート中の塩化物イオンから生じる。塩害地域以外でも鉄筋の錆や腐食の要因となる場合がある。	余寿命診断と躯体改修策の立案 音響環境改善策の立案
類似事例調査	同規模事例、音響・舞台設備改善事例、同種機能マップの作成	各種比較検討案の作成
適正寸法体系	ホール・舞台規模、座席ピッチ、客席～舞台間距離、レイアウトなど	機能性・快適性・満足度向上
各種ニーズ	中野市人口ビジョン（H27）、公共施設等総合管理計画など関連計画の分析調査	改修計画及び長寿命化策の立案